

たまえいが通信

5月号

連続特別上映会開催！

- ・4月24日(土)は『台湾人生』
 - ・5月8日(土)は『犬と猫と人間と』
- ドキュメンタリー作品を連続上映いたします！

『犬と猫と人間と』(飯田基晴監督)

町を歩けばあちこちで目にする光景、それは、散歩中の犬や、路地裏でくつろぐ野良猫たち。しかし、全ての犬と猫が幸せな一生を送れるわけではありません。空前のペットブームの影で、日本で処分される犬と猫は年間30万頭以上。一日に1000匹近くが殺されている現実があります。あなたは、犬と猫たちのことをほんとうに知っていますか？

路上に生きる人々を撮ったドキュメンタリー映画『あしがらさん』の飯田基晴監督の、捨てられた犬と猫をめぐる旅が始まります。

■日時・会場■

2010年5月8日(土)

11:30-13:28 第1回上映

14:30-16:28 第2回上映

16:30-17:10 飯田基晴監督トーク

17:30-19:28 第3回上映

会場:ベルブホール(多摩市永山公民館)

(ベルブ永山5F・京王・小田急線永山駅下車徒歩2分)

■入場料■

前売:大人:1000円

当日:大人:1200円 こども:500円

(大人は13歳以上、こどもは4歳~12歳・当日券のみ)

「犬と猫と人間と」オフィシャルサイト:

<http://www.inunekoningen.com/>



次回は7月24日(土)を予定(作品は鋭意選定中!)

『台湾人生』(酒井充子監督)を上映しました

4月24日(土)は台湾が日本統治下にあった時代に青春を送った5人の台湾人のいまを追うドキュメンタリー『台湾人生』(酒井充子監督)を上映いたしました。

当日は酒井充子監督にご来場頂き、トークショーを開催いたしました。

トークショー後はサイン会も開催され、多くのお客様が監督に熱く語りかけていました。

ご来場頂いたお客様、酒井充子監督、配給担当の方、ありがとうございました。



トーク中の酒井監督(右)



サイン会

◆「台湾人生」オフィシャルサイト:

<http://www.taiwan-jinsei.com/>

『田中さんはラジオ体操をしない』(マリー・デロフスキー監督)を上映しました

2月20日(土)は会社の不当解雇に対して抗議活動28年間!東京都八王子を舞台に、田中哲朗さんをユーモラスに描いたドキュメンタリー『田中さんはラジオ体操をしない』を上映いたしました。

ゲストに主演の田中哲朗氏を招いてのトーク&ライブも行われました。ご来場頂いたみなさま、ありがとうございました。



おススメ映画コーナー

ここでは TCF 実行委員のおススメ映画を紹介します

『ソラニン』(三木孝浩監督)

タ方の客席には、学校帰りの高校生のカップルや少しだるそうな恋人たちで、会社帰りの私は全く浮いた存在でした。

宮崎あおいの叫ぶようなポスターが気になってチケットを買いました。

いらだつような種田と芽衣子の生活。ビリー、加藤、アイとのスクランブル。彼らの不安さや、いらだちがわかりすぎる位わかるので、椅子の中でモゾモゾからだを動かしながら見ていました。見知った多摩川の風景の中で過ぎていく世界に時代を重ねてもいいんだろうが、そんな気にはさらさらなれず、彼らの生活に身を委ねて見ていました。

芽衣子とビリーがチャリンコでスタジオに急ぐ場面には不覚にも涙が出、芽衣子が歌うソラニンにリズムをきざんでいました。

隣の高校生の目には画面のまぶしい位の不安が見えているんだろうか。同じ画面を見ている私には…。

君たちの、かあさんやとうさんもソラニンの苦さは知っていることを少しでも思っていてほしい。

ソラニンの苦さを知っている「セントエルモスファイヤー」世代にも、ひっそりと見てほしい。新しい革袋に入った酒を飲んでみるのも良いものだよ。

それにしても ARATA の懐の深さには、いつもながら驚かされる。(た)

『第9地区』(ニール・ブロムカンプ監督)

ある日、謎の宇宙船が南アフリカ上空に姿を現す。友好を結ぶでもなく、侵略もしてこない宇宙人な難民となり、人間と共同生活することになる。

そして、宇宙人の居住地区「第9地区」はスラム化し、国は難民である宇宙人を強制収容所に移住させようとするのだが…。

南アフリカを舞台としていることから、アパルトヘイトをどうしても連想させるが、そうした点はさておき、宇宙人やロボットなどポンクラ中 2 男子が見たいものが満載である。

本作品はアカデミー賞にノミネートされるなど高い評価を得たが、当初は日本公開が危ぶまれていたらしい。

ある意味一級のバカ映画でもある。続編の『第10地区』にも期待(!?ホントにできるのか)。(よ)

『ダーリンは外国人』(宇恵和昭監督)

タイトルの通り「国際結婚」をテーマにした作品。漫画が原作なのでコメディ映画だとばかり思っていたのですが、シッカリした筋の恋愛映画でした。

良くいえば「王道」、悪く言えば「ありきたり」なストーリー展開ですが、恋人が外国人という特殊な設定なので最後まで飽きずに見れました。

所々で外国人の考え方というか本音がストレートに出るシーンがあるので、国際結婚に憧れてる方はちょっとショッキングかもですが、なかなか興味深いポイントではありました。

出演者も主演の井上真央をはじめ、実力派が多いのでその点も安心です。

特に恋人役のジョナサン・シェアが純情すぎる演技でとても可愛いです。井上真央を喰うくらいに…。

母親役の大竹しのぶさんは演技と顔が年々、岸田今日子さんに似てきているように感じました。

今後の活躍がとても楽しみな役者さんのひとりになりました。(ほ)

『息もできない』(ヤン・イクチュン監督)

家族だからこそ感情をむきだしにできる。家族であるがゆえに見えない絆がある。

韓国・漢江近くの坂道の上で暮らしている“つらい過去”を背負ったチンピラの男と女子高校生。

それぞれに明日の希望などはなく、今自分がしたいことをただ繰り返すだけの毎日。

あることがきっかけで2人は出会い、出会ったからこそ、お互いに何かを求めて探しだす。

監督・主演のヤン・イクチュンの長編デビュー作。

都会の片隅で行われる暴力シーンと、何気ない生活シーンの数々を映画の中で映し出すことによって、人物の生き様がより身近に感じとれる。

ヤン・イクチュン自身が何かを求めながらこの作品を撮っているような気がする作品だった。

待っていてくれる人がいる。だからこそ、自分はそこへ向かう。

一見何でもないことのように思えるが、幸せはそこから始まるのかもしれない。

人は人によって助けられ、人と人によって明日が見えてくることを改めて実感することが出来る作品です。

お勧め度☆☆☆☆☆(な)

お知らせコーナー

○今年の映画祭は11月20日(土)から28日(日)までの開催予定です！

現在は映画祭でどんな作品を上映しようかと企画案を練っている段階です。今年の映画祭ではどんな映画が上映されて、どんなゲストが来場するのか…。そして第2回目を迎える日本で一番早い(!?)TAMA映画賞はどんな作品・受賞者に贈られるのか。皆さん、どうぞお楽しみに！

また、第11回を迎えるTAMA NEW WAVEも作品募集中です。
こちらもご期待下さい。

○映画祭実行委員をやってみませんか

映画好きな方・イベント好きな方、映画祭が出来るまでと一緒に体験してみませんか？
映画祭でこんな企画をやってみたい、イベントの運営なら興味があるなど、自分の力を思い切り試してください。

なお、不安なこともあると思いますので、最初にじっくりと説明を聞いてからの参加で構いません。
6月13日(日)に募集説明会を予定しております(詳細はホームページをご確認下さい)。

○たまシネマ隊に参加してみませんか

「一年間を通じて参加するのは難しいけど、映画祭の期間だけでも参加してみたい」
そんな方はぜひ「たまシネマ隊」に参加してみてください。
今年度のシネマ隊の説明会は10月に行う予定です。

○支援会員制度のお願い

「実行委員やシネマ隊として参加するのは難しいけどTAMA映画フォーラムを応援したい」
そんな方はぜひ「支援会員」としての応援をお願い致します。

支援金寄付 個人会員：一口1000円

ご協力いただいた方は、映画祭パンフレットの贈呈などの特典もございます。

●郵便振替番号 00160-5-541123

加入者名 TAMA映画フォーラム実行委員会

(ご不明な点はお問い合わせ下さい)

発行:TAMA映画フォーラム実行委員会

〒206-0025東京都多摩市永山1-5 (ベルブ永山)多摩市立永山公民館内

TAMA映画フォーラム実行委員会

TEL080-5450-7204(直通)、042-337-6661、FAX 042-337-6003

<http://www.tamaeiga.org/> <mailto:info@tamaeiga.org>

